

III 調查結果

3-1 現在の状況

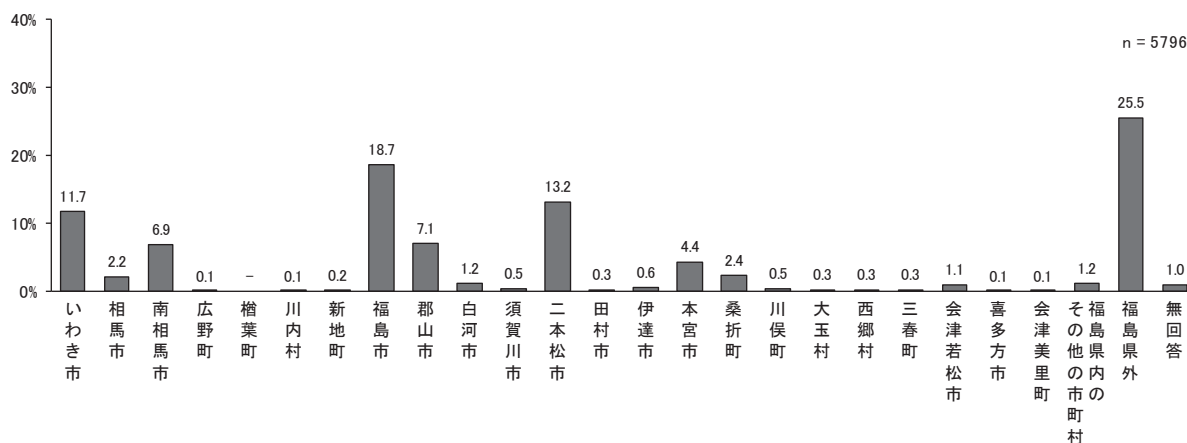
3-1-1 現在の避難先自治体

問5 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(〇は1つ)

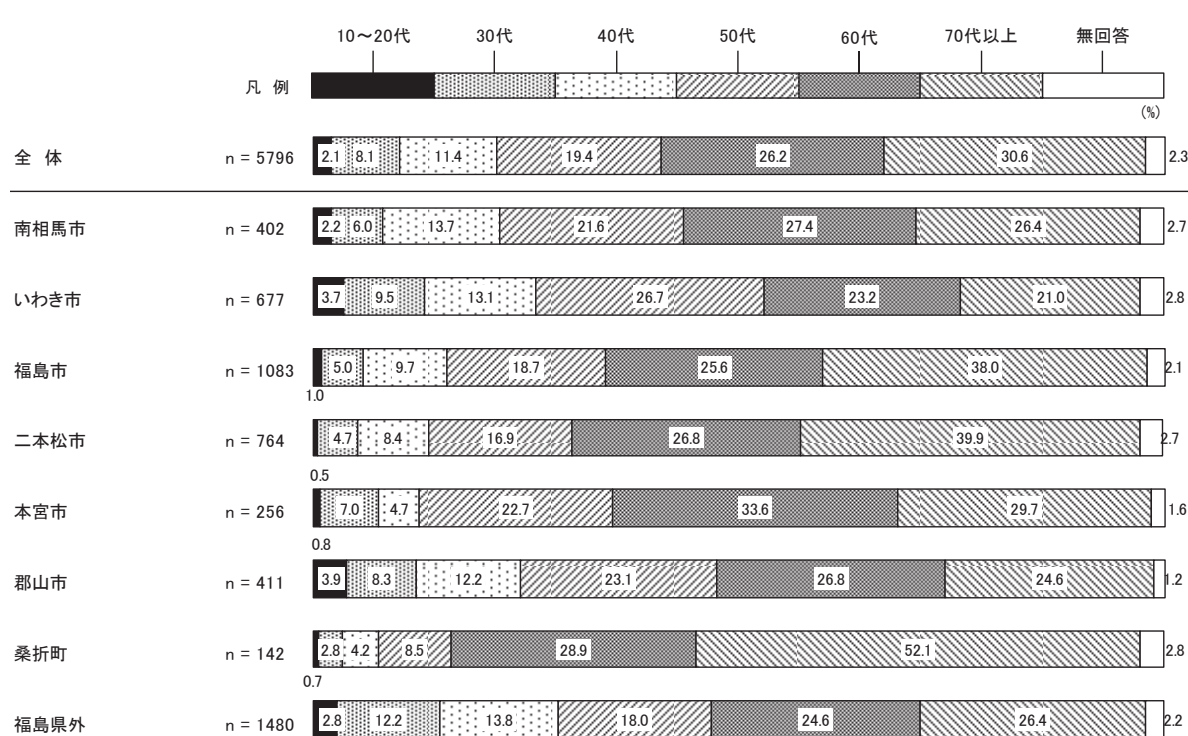
現在の避難先自治体については、「福島県外」が25.5%と最も高く、次いで「福島市」が18.7%、「二本松市」が13.2%となっている。

避難先の主な自治体について回答者の年齢別にみると、「桑折町」は60代以上が81.0%と8割以上を占め、高齢層が高い。一方、「いわき市、郡山市、福島県外」では30代以下が1割を超えており、若年層の割合が比較的高くなっている。

<図表3-1-1-1 避難先自治体>



<図表3-1-1-2 主な避難先自治体の年齢構成>



震災発生当時の行政区別にみると、南棚塩、1区、では「福島市」が3割以上となっている。また、羽附、畑川、手七郎、小丸では「二本松市」が3割以上、畑川では「本宮市」が3割以上となっている。

<図表3-1-1-3 主な避難先自治体（行政区別）>

	n	南相馬市	いわき市	福島市	二本松市	本宮市	郡山市	桑折町	福島県外
全体	5796	6.9	11.7	18.7	13.2	4.4	7.1	2.4	25.5
1区	119	4.2	9.2	31.9	9.2	0.8	7.6	2.5	25.2
2区	52	9.6	13.5	9.6	9.6	5.8	5.8	3.8	38.5
3区	40	12.5	15.0	27.5	5.0	-	5.0	2.5	25.0
4区	199	7.5	13.1	21.6	13.6	4.0	6.0	2.5	24.1
5区	129	7.0	8.5	24.0	10.1	1.6	8.5	4.7	29.5
6区	65	9.2	15.4	26.2	9.2	1.5	-	6.2	23.1
7区	63	4.8	11.1	19.0	12.7	1.6	6.3	1.6	33.3
8区	130	3.1	13.1	26.2	13.1	2.3	3.8	2.3	28.5
佐屋前	151	4.0	9.3	19.9	11.3	2.0	6.6	2.6	32.5
川添北	275	6.2	13.1	17.8	11.6	1.8	11.6	2.2	26.9
川添南	231	7.8	13.9	15.6	11.3	3.5	6.1	3.0	31.6
上ノ原	394	6.6	12.7	14.7	14.7	3.8	7.4	4.6	27.7
樋渡・牛渡	320	6.3	10.0	19.7	13.4	4.1	5.6	0.9	29.1
高瀬	163	9.8	12.9	14.7	11.0	2.5	14.1	3.1	19.6
幾世橋	203	5.9	10.8	16.3	10.3	3.4	9.4	2.0	34.5
北幾世橋北	177	11.3	11.9	19.8	11.3	6.8	7.9	2.8	19.2
北幾世橋南	74	9.5	10.8	16.2	6.8	9.5	8.1	1.4	28.4
北棚塩	67	7.5	11.9	28.4	6.0	7.5	6.0	1.5	28.4
南棚塩	82	15.9	11.0	35.4	3.7	2.4	3.7	-	17.1
請戸北	171	9.4	12.3	21.6	10.5	-	4.1	1.2	31.6
請戸南	136	5.1	14.7	23.5	14.0	2.2	2.9	2.2	30.1
中浜	38	5.3	23.7	23.7	13.2	-	10.5	-	15.8
両竹	25	4.0	24.0	20.0	4.0	4.0	4.0	-	32.0
小丸	29	6.9	13.8	17.2	34.5	6.9	-	-	13.8
畑川	8	-	12.5	-	37.5	37.5	-	-	12.5

	n	南相馬市	いわき市	福島市	二本松市	本宮市	郡山市	桑折町	福島県外
井手	105	5.7	14.3	20.0	22.9	5.7	4.8	1.0	19.0
田尻	279	8.2	12.2	10.0	12.5	4.3	10.4	2.9	30.8
末ノ森	43	14.0	16.3	14.0	20.9	-	4.7	2.3	11.6
大堀	119	6.7	16.0	14.3	6.7	9.2	9.2	0.8	24.4
小野田	97	5.2	18.6	9.3	15.5	3.1	6.2	-	26.8
谷津田	91	3.3	17.6	20.9	8.8	4.4	7.7	5.5	24.2
酒井	62	4.8	14.5	14.5	11.3	1.6	21.0	1.6	22.6
室原	173	8.1	10.4	17.9	12.1	4.6	6.9	4.0	24.3
立野上	72	8.3	5.6	16.7	19.4	9.7	5.6	2.8	26.4
立野中	75	10.7	9.3	16.0	13.3	8.0	8.0	-	22.7
立野下	114	6.1	19.3	18.4	21.1	3.5	2.6	3.5	16.7
刈宿	94	4.3	13.8	21.3	7.4	6.4	9.6	-	24.5
加倉	204	4.4	8.8	17.6	16.7	4.9	9.3	2.0	24.5
酒田	183	7.7	9.8	16.4	9.3	7.1	6.0	3.8	28.4
西台	115	8.7	14.8	15.7	13.9	8.7	6.1	0.9	26.1
藤橋	83	14.5	9.6	15.7	12.0	3.6	4.8	1.2	31.3
羽附	35	2.9	-	28.6	42.9	14.3	-	-	5.7
津島	114	2.6	2.6	25.4	28.1	6.1	5.3	0.9	10.5
下津島	49	6.1	2.0	12.2	26.5	6.1	10.2	8.2	16.3
南津島上	53	7.5	-	15.1	18.9	17.0	5.7	3.8	18.9
南津島下	59	-	8.5	28.8	28.8	11.9	1.7	8.5	5.1
赤字木	68	8.8	1.5	27.9	16.2	8.8	4.4	1.5	11.8
手七郎	19	10.5	-	26.3	36.8	5.3	10.5	-	5.3
大屋	14	7.1	-	7.1	14.3	21.4	-	14.3	28.6
不明	5	-	20.0	20.0	20.0	-	-	-	20.0

3-1-2 世帯構成・人数

(1) 震災発生当時の世帯構成・人数

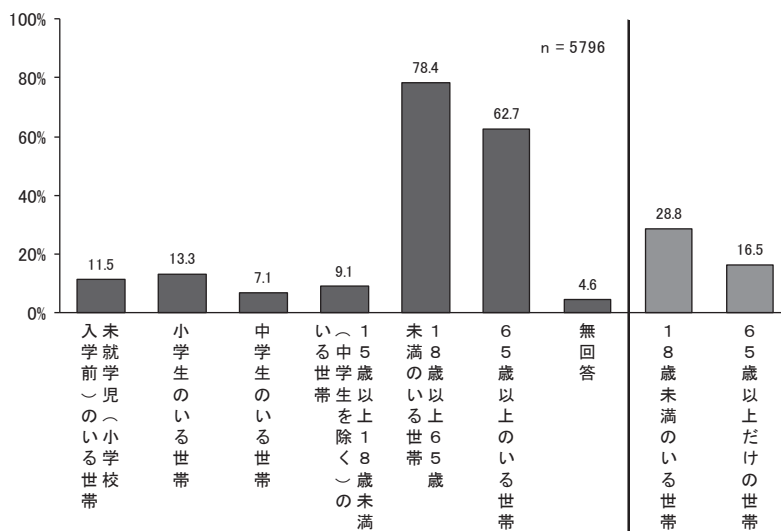
問6 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。いずれについても、あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

(2) 震災発生ときに、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

① 震災発生当時の世帯構成

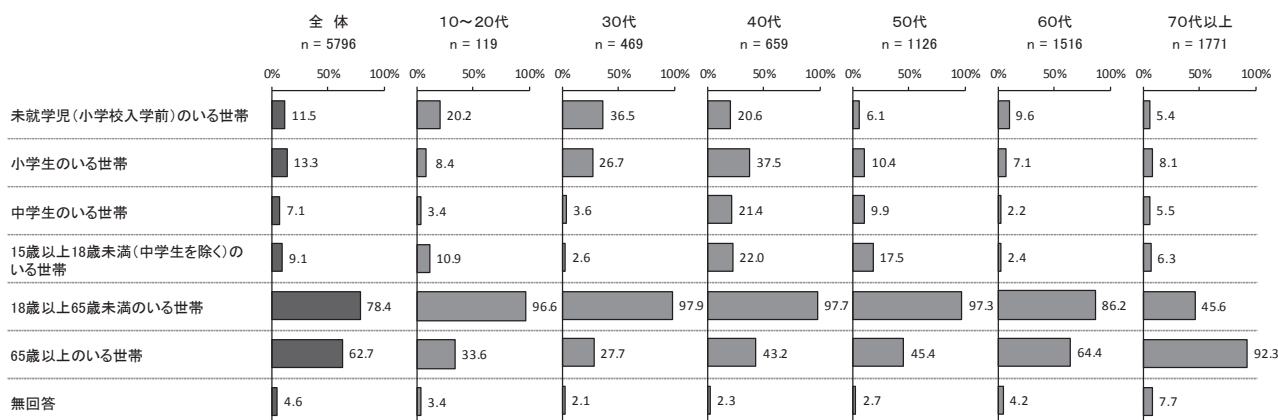
震災発生当時の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が78.4%、「65歳以上のいる世帯」が62.7%となっている。一方、「未就学児のいる世帯」、「小学生のいる世帯」、「中学生のいる世帯」、「15歳以上18歳未満のいる世帯」はいずれも1割前後となっている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯構成>



*集計結果を基に再集計

<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯構成(年齢別)>

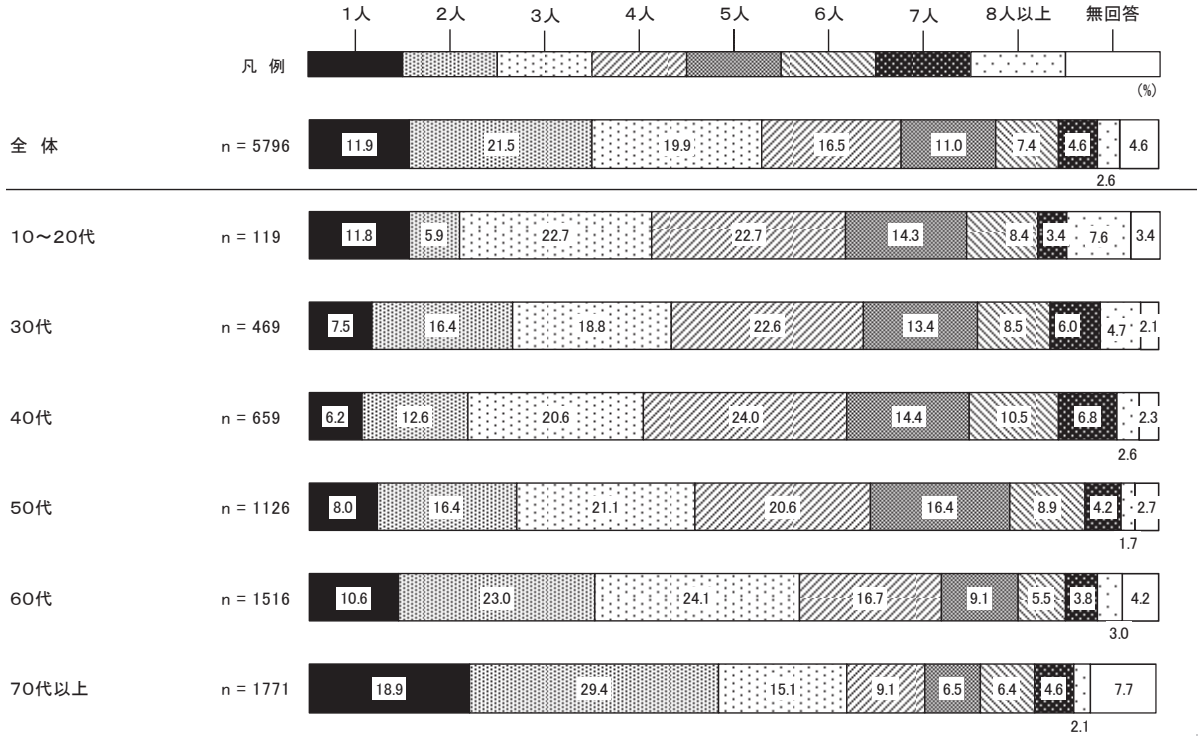


② 震災発生当時の世帯人数

震災発生当時の世帯人数は、「2人」が21.5%と最も高く、次いで「3人」(19.9%)、「4人」(16.5%)となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は概ね年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上で29.4%と最も高くなっている。「3人」は60代で24.1%、「4人」は40代で24.0%と最も高くなっている。

<図表3-1-2-3 震災発生当時の世帯人数(年齢別)>



(2) 現在の世帯構成・人数

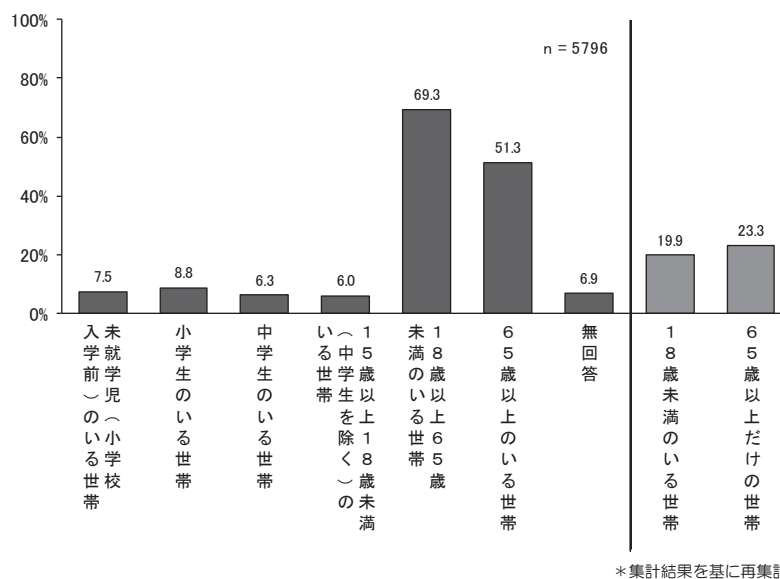
問6 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。いずれについても、あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

(1) 現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

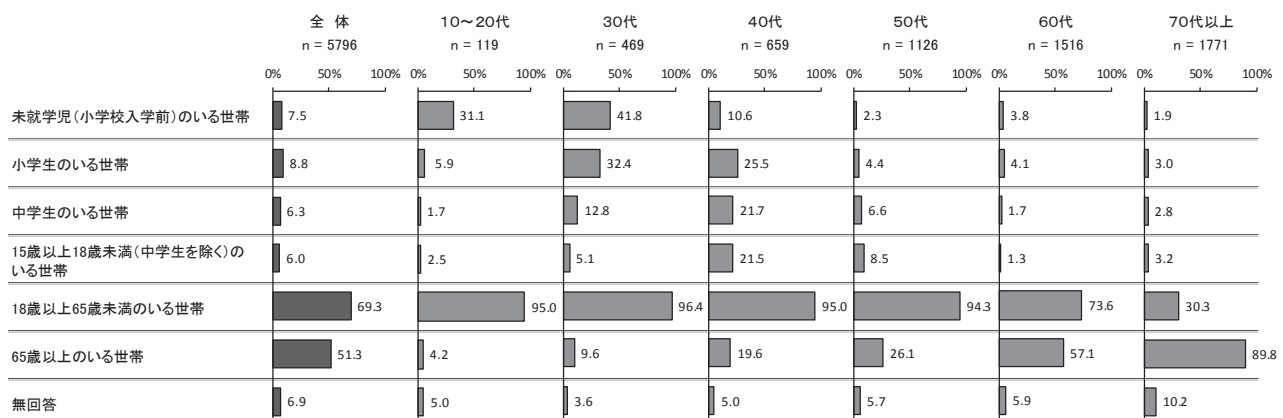
① 現在の世帯構成

現在の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が69.3%、「65歳以上のいる世帯」が51.3%となっている。一方、「未就学児のいる世帯」、「小学生のいる世帯」、「中学生のいる世帯」、「15歳以上18歳未満のいる世帯」はいずれも1割未満となっている。

<図表3-1-2-4 現在の世帯構成>



<図表3-1-2-5 現在の世帯構成(年齢別)>

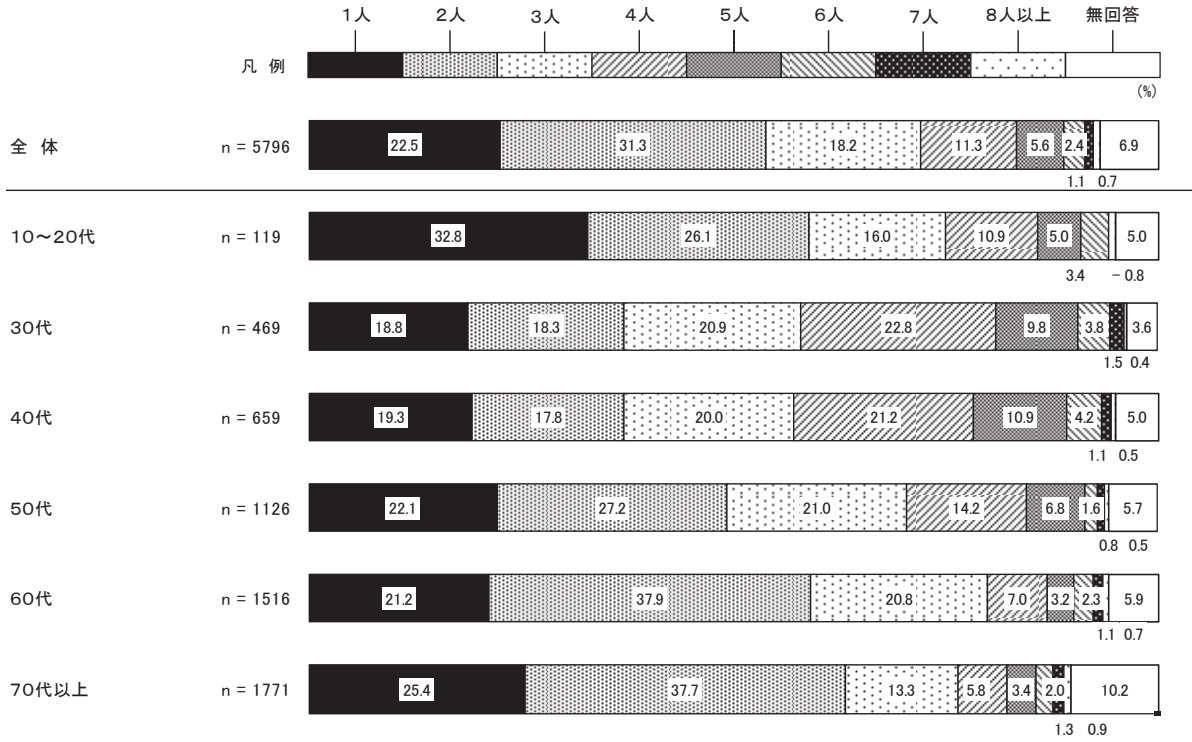


② 現在の世帯人数

現在の世帯人数は、「2人」が31.3%と最も高く、次いで「1人」(22.5%)、「3人」(18.2%)となっている。

回答者の年齢別にみると、「1人」は10~20代(32.8%)、「2人」は60代(37.9%)、70代以上(37.7%)、「4人」は30代(22.8%)、40代(21.2%)が他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-1-2-6 現在の世帯人数(年齢別)>



3-1-3 職業

(1) 現在の職業（就業形態）

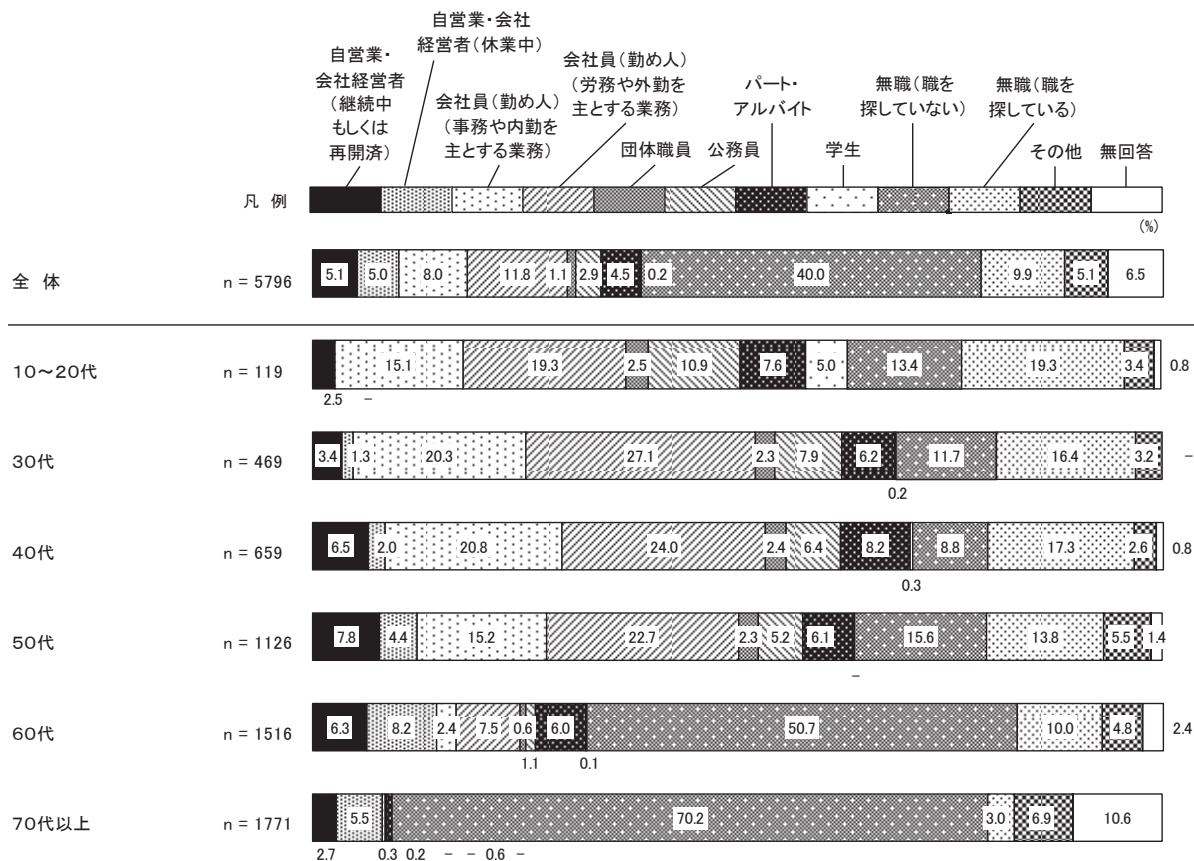
問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(〇は1つ)

現在の職業（就業形態）については、無職以外では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が11.8%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が8.0%となっている。

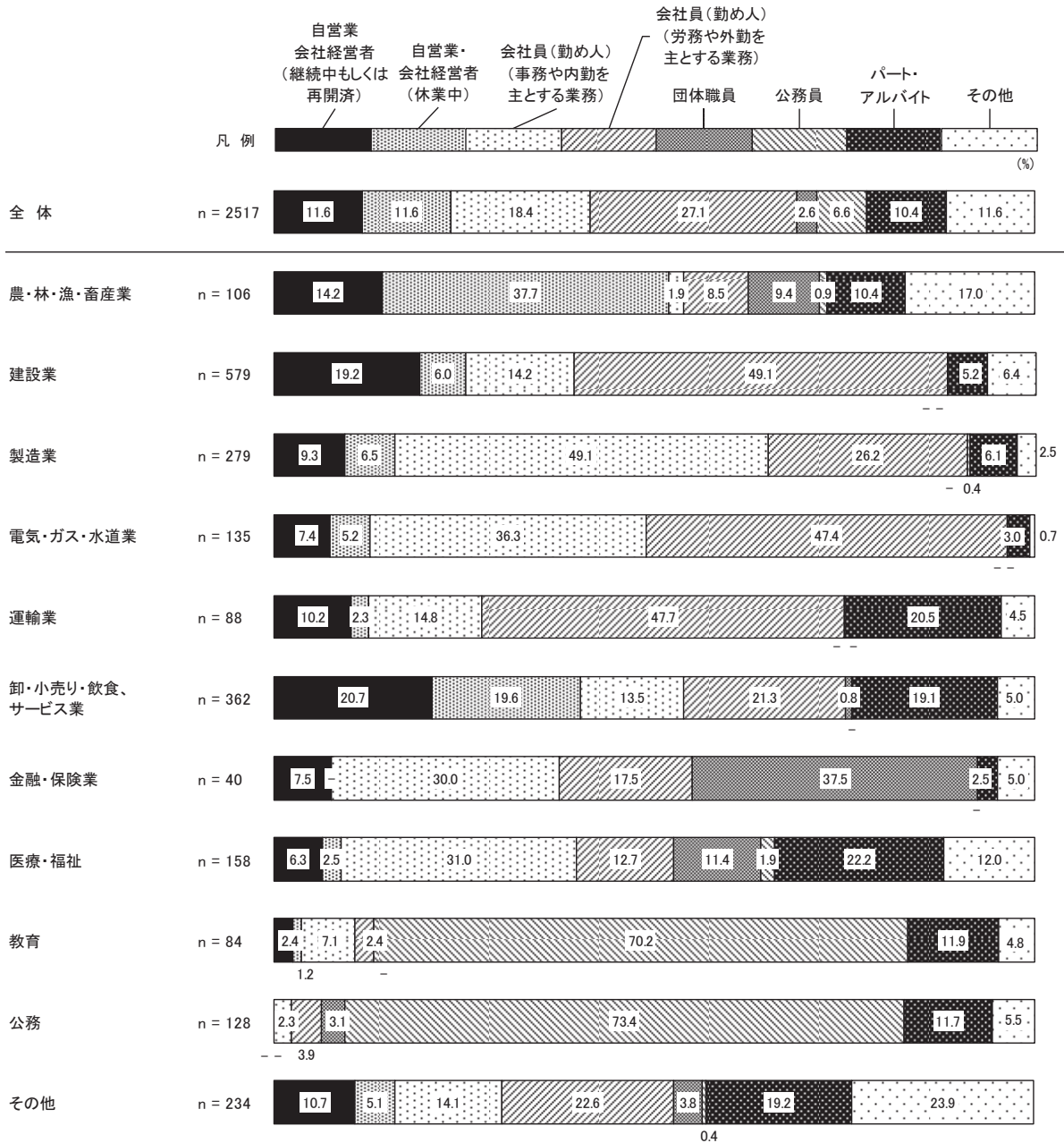
回答者の年齢別にみて、それぞれ最も高い割合を占めている職業は 10~20代は「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」「無職（職を探している）」（ともに19.3%）、30代は「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」（27.1%）、40代は「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」（24.0%）、50代は「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」（22.7%）、60代は「無職（職を探していない）」（50.7%）、70代は「無職（職を探していない）」（70.2%）となっている。

<図表3-1-3-1 現在の職業（年齢別）>



世帯主が就業しているとした世帯について業種別にみると、建設業では「会社員(勤め人) (労務や外勤を主とする業務)」(49.1%)、運輸業では「会社員(勤め人) (労務や外勤を主とする業務)」(47.7%)、製造業では「会社員(勤め人) (事務や内勤を主とする業務)」(49.1%)が他の業種と比べ高くなっている。

<図表3-1-3-2 現在の職業(業種別)>



(2) 現在の業種

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

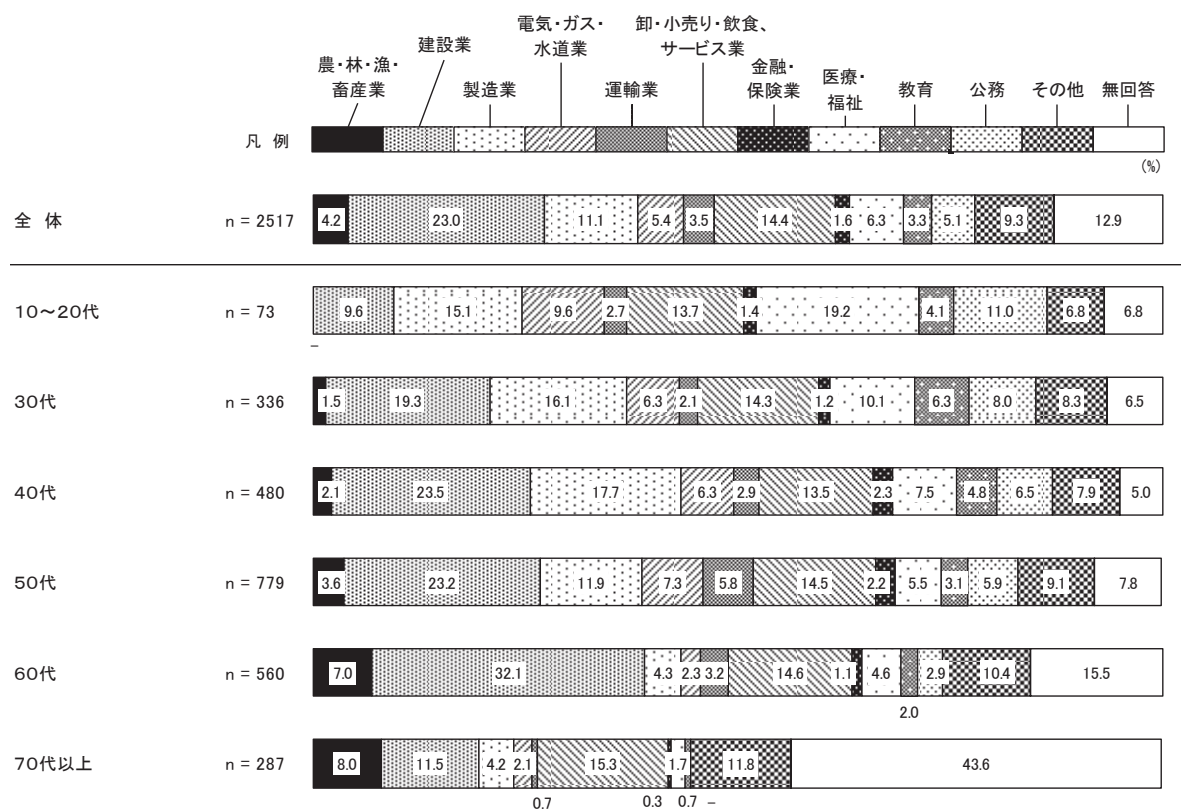
【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

世帯主が就業しているとした世帯の業種については、「建設業」が23.0%と最も高く、次いで「卸・小売り・飲食、サービス業」が14.4%、「製造業」が11.1%となっている。

回答者の年齢別にみると、「建設業」は、60代が32.1%、「医療・福祉」は、10~20代が19.2%、「製造業」は、40代が17.7%、30代が16.1%、10~20代が15.1%となっており、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-1-3-3 業種(年齢別)>



3-1-4 震災発生当時の住宅の状況

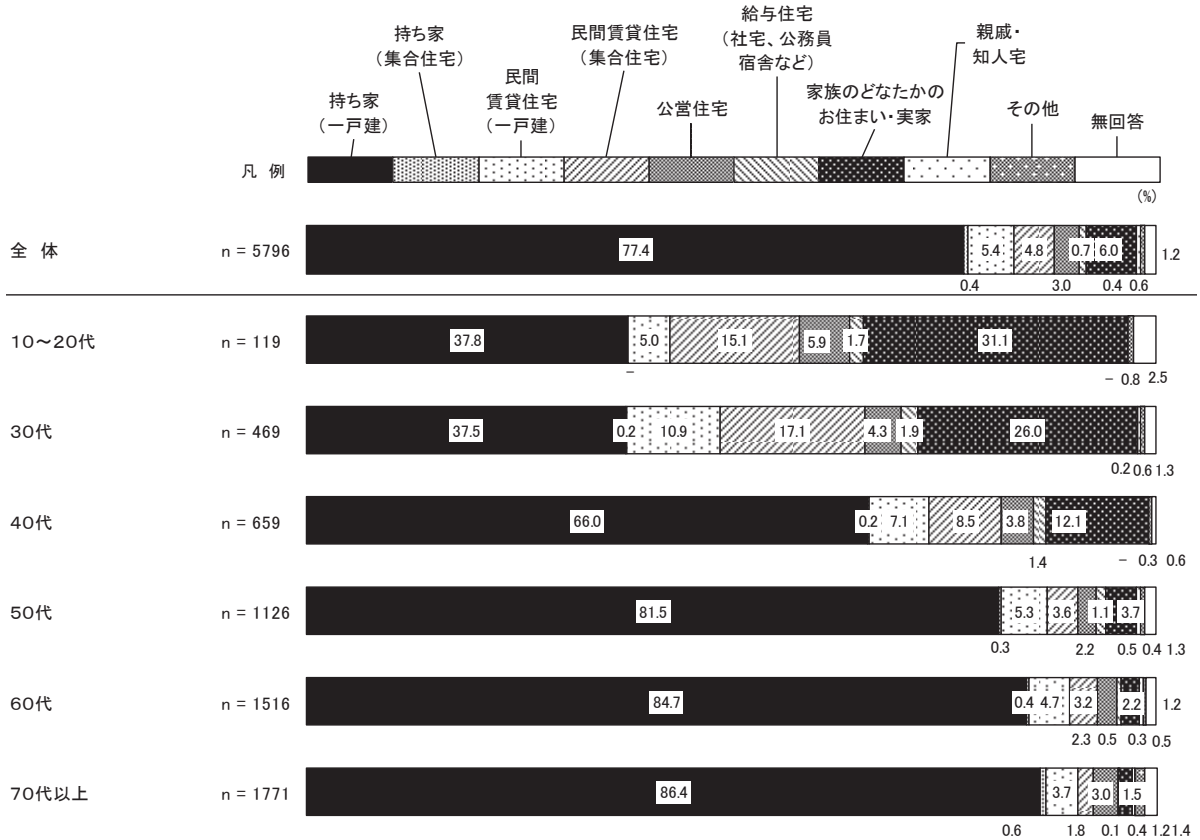
(1) 震災発生当時の住居形態

問4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居形態については、「持ち家(一戸建)」が77.4%と最も高く、「持ち家(集合住宅)」(0.4%)を合わせた<持ち家>は77.8%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家(一戸建)」は概ね年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上では86.4%と9割近くを占める。一方、「民間賃貸住宅(集合住宅)」、「家族のどなたかのお住まい・実家」は若年層で高く、「民間賃貸住宅(集合住宅)」は10~20代で15.1%、30代で17.1%、「家族のどなたかのお住まい・実家」は10~20代で31.1%、30代で26.0%となっている。

<図表3-1-4-1 震災発生当時の住居形態(年齢別)>



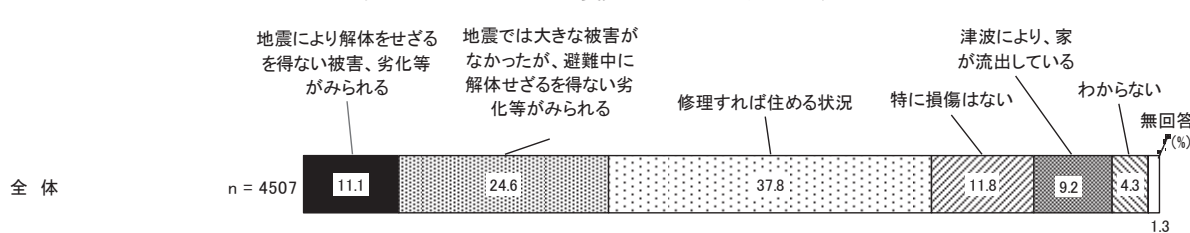
(2) 震災発生当時の住宅の状況

【問4で「1. 持ち家(一戸建)」「2. 持ち家(集合住宅)」と回答した方にうかがいます。】

問4-1 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような状況ですか。(〇は1つ)

震災発生当時の住宅の状況については、「修理すれば住める状況」が37.8%と最も高く、次いで「地震では大きな被害がなかったが、避難中に解体せざるを得ない劣化等がみられる」が24.6%となっている。

<図表3-1-4-2 震災発生当時の住宅の状況>



(3) 震災発生当時の住宅の今後の所有

【問4で「1. 持ち家(一戸建)」「2. 持ち家(集合住宅)」と回答した方にうかがいます。】

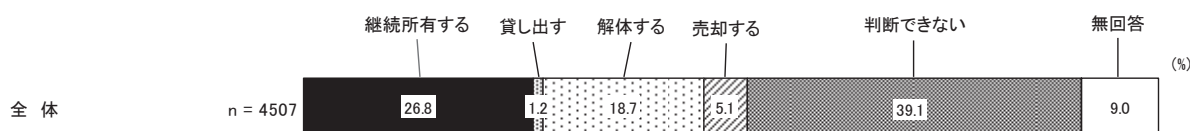
問4-2 震災発生当時にお住まいだった住宅について、今後の所有をどのようにお考えですか。

(「1. 建物」「2. 宅地」それぞれについて、表内の該当するところに〇)

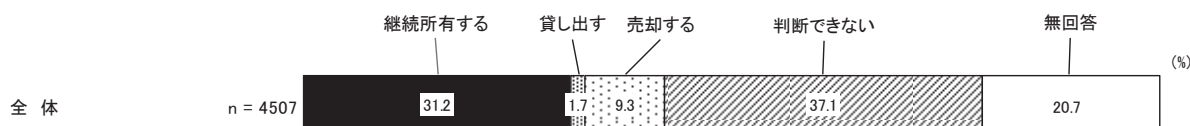
震災発生当時の住宅(建物)の今後の所有については、「判断できない」が39.1%と最も高く、次いで「継続所有する」が26.8%となっている。

震災発生当時の住宅(土地)の今後の所有についても同様に、「判断できない」が37.1%と最も高く、次いで「継続所有する」が31.2%となっている。

<図表3-1-4-3 震災発生当時の住宅の今後の所有(建物)>



<図表3-1-4-4 震災発生当時の住宅の今後の所有(土地)>



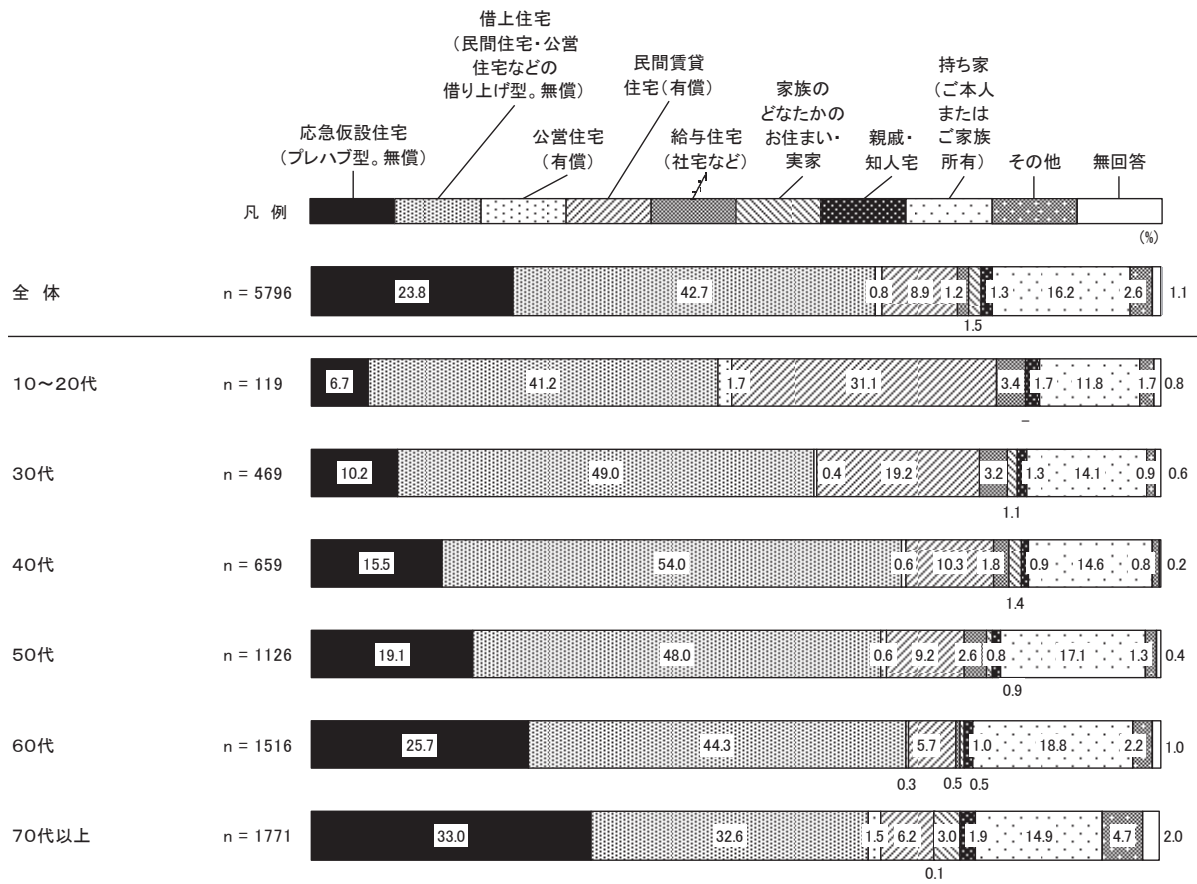
3-1-5 現在の住居形態

問7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

現在の住居形態については、「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が42.7%と最も高く、次いで「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」が23.8%、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が16.2%となっている。

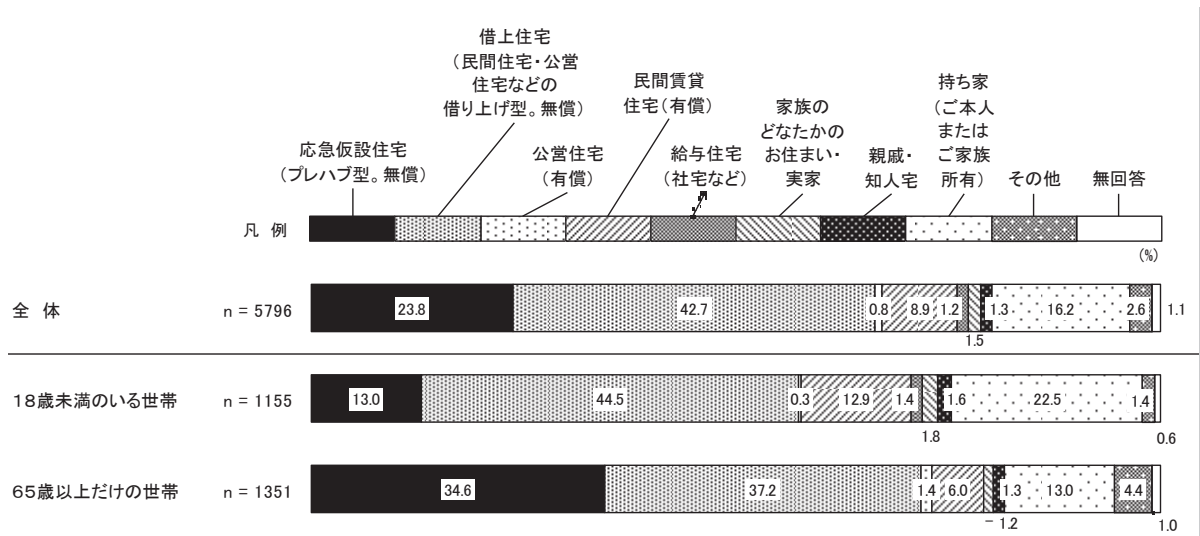
回答者の年齢別にみると、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上では33.0%となっている。一方、「民間賃貸住宅（有償）」では若年層で高く、10~20代が31.1%、30代で19.2%となっている。「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は40代(54.0%)が他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-1-5-1 現在の住居形態（年齢別）>



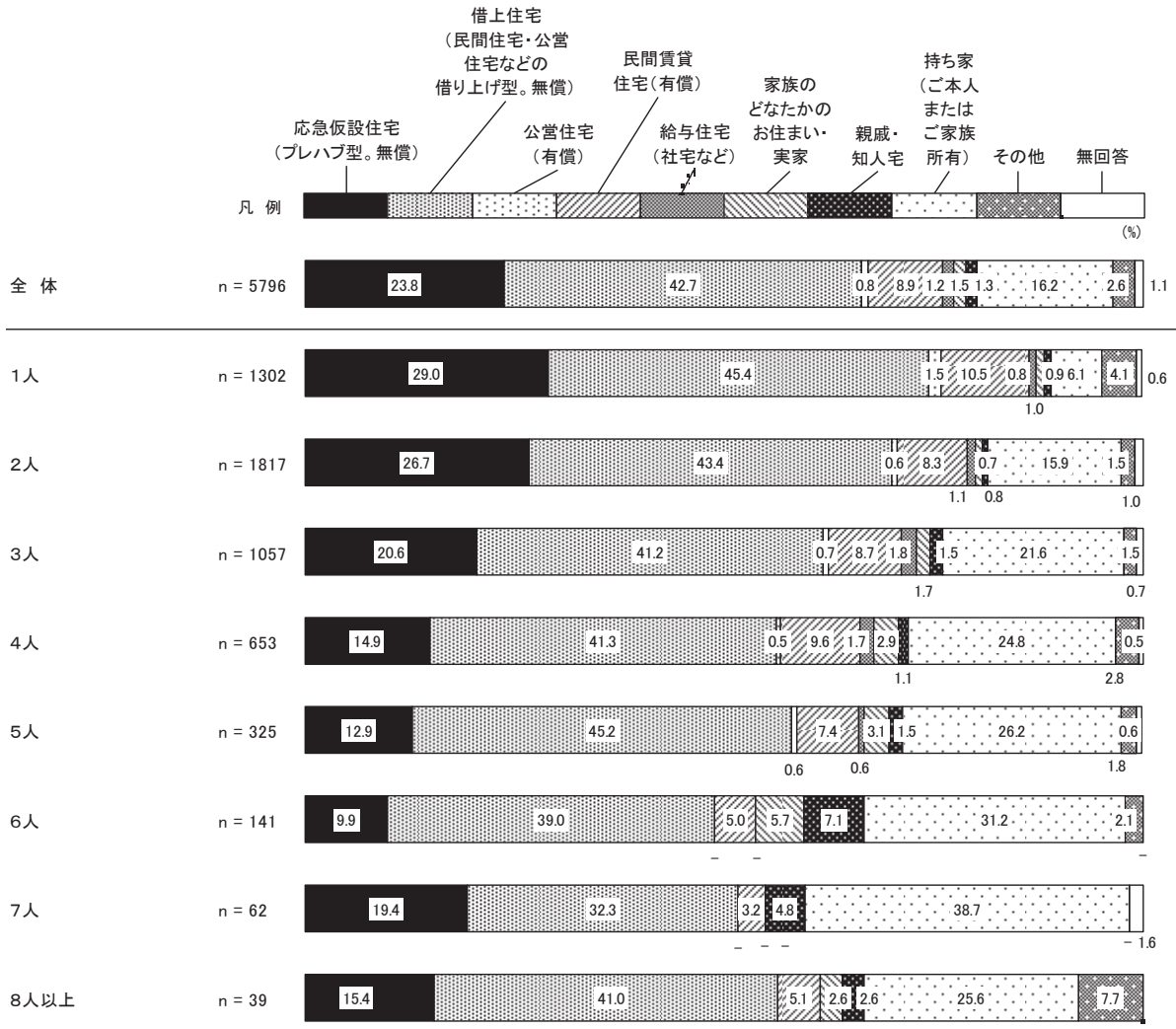
世帯構成別にみると、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は、65歳以上だけの世帯が34.6%と高くなっている。「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は、18歳未満のいる世帯が22.5%と高くなっている。

<図表3-1-5-2 現在の住居形態（世帯構成別）>



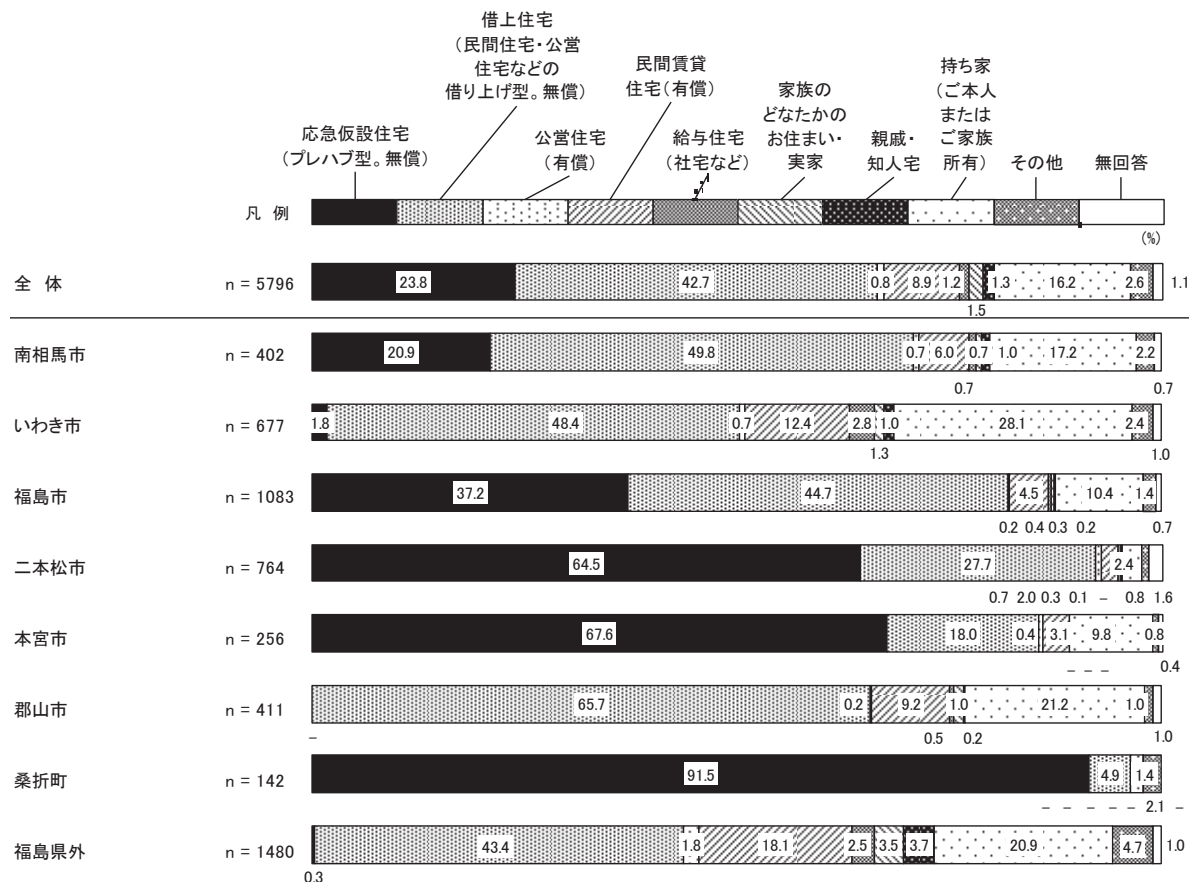
世帯人数別にみると、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は、世帯人数が多くなるにつれ割合が低くなり、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は世帯人数が多くなるほど割合が高くなる傾向にある。

<図表3-1-5-3 現在の住居形態（世帯人数別）>



主な避難先自治体別にみると、「応急仮設住宅(プレハブ型。無償)」は、桑折町(91.5%)、本宮市(67.6%)、二本松市(64.5%)が、「持ち家(ご本人またはご家族所有)」はいわき市(28.1%)、「借上住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償)」は郡山市(65.7%)が他の自治体と比べ高くなっている。

<図表3-1-5-4 現在の住居形態(主な避難先自治体別)>



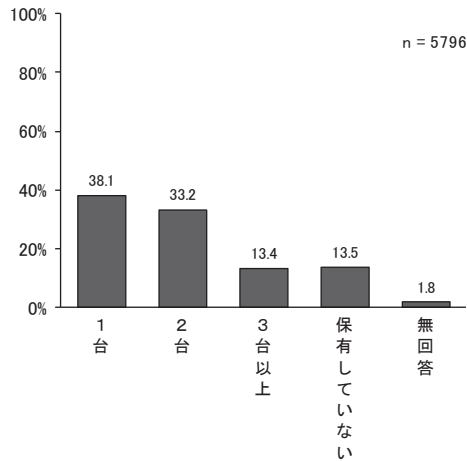
3-1-6 現在の自動車の保有状況

問8 現在、自動車は何台保有していますか。(〇は1つ)

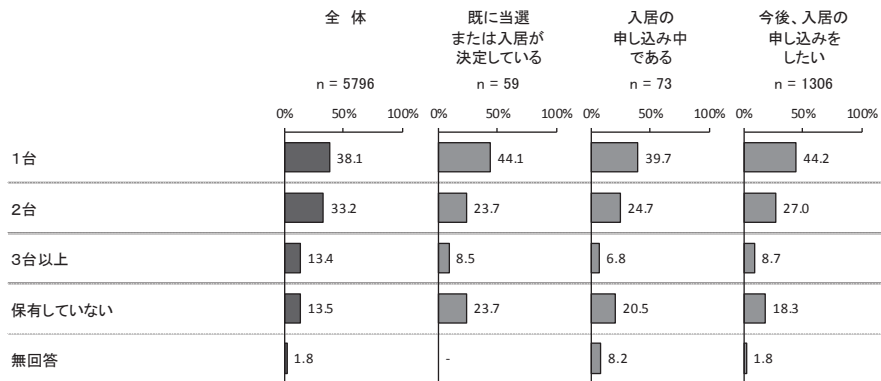
現在の自動車保有状況については、「1台」が38.1%と最も高いが、複数台所有している人も全体の約半数を占める。

復興公営住宅への入居意向別にみると、いずれも「1台」が最も高くなっている。

<図表3-1-6-1 現在の自動車の保有状況>



<図表3-1-6-2 現在の自動車の保有状況（復興公営住宅への入居意向別）>

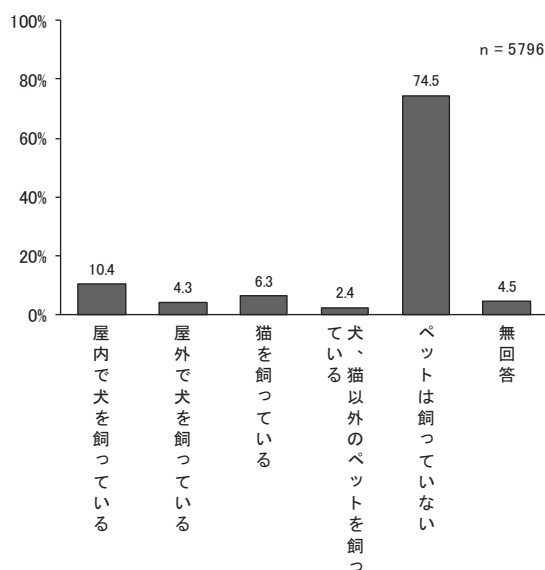


3-1-7 現在のペットの飼育状況

問9 現在、ペットを飼っていますか。(〇はいくつでも)

現在のペットの飼育状況については、ペットは飼っていない世帯が74.5%と最も高く、次いで、犬を飼っている世帯(「屋内で犬を飼っている」、「屋外で犬を飼っている」)が14.7%、猫を飼っている世帯が6.3%となっている。

<図表3-1-7-1 現在のペットの飼育状況>



<図表3-1-7-2 現在のペットの飼育状況(復興公営住宅への入居意向別)>

